

戦後の野球部 私の選んだベスト9(下)

フリーライター 鈴木俊彦氏(68期)



鈴木俊彦氏

前号に続き、母校出身の優等生だが、制球難が惜しまれた野球人を列挙してみよう。

昭和五七年夏の甲子園に出た大久保学は、池田戦で力投。戦後初の甲子園出場をならしたエースの森山秀夫は馬淵建設に入社して内野手に転じ、も前回Bチームにランクした立川A10に補強されて都市対抗にも出場した。昭和二四

は、在校時は外野を守り控えた投手でもあった。二六年春夏連続出場時の主将。慶大から東洋高圧砂川に入りエースとして好投。都市対抗でも力投し、北海道屈指の投手として注目された。

昭和三五年夏の全国準優勝に貢献したエースの石田勝広は、早大入りし神宮でも好投。残念ながら肩を痛めて大学後半は出場がなかった。昭和四八年夏の全国準優勝時のエース秋本昌宏は、大に進むも、投手生命は高校時代に燃え尽きていたようだった。昭和五四年センバツ出場の左腕・太田智之は明大―河合楽器でも

ライオンが巧みで、立派にエース役を果たし東芝入り。トヨタに入った鶴田健太、日通入りの増井達哉、立大に入学した増田浩祐らの成長も楽しみだ。

大野(有本) 勲は強肩で鳴らし、驚異製作所でも活躍した。昭和五四年のセンバツに登場した安間大芳は中大に入り、河合楽器に入社して都市対抗に出場した。昭和五七年夏の甲子園に出た宮城明秀も中大で活躍している。昭和六二年夏に右翼手として甲子園

は石川島播磨重工で活躍。左打ちの塩沢誠は専大に進み、昭和四〇―四一年東都ベストナインに三期連続で選ばれており日本楽器でも着実な打力をみせた。西村晃は高校から

し期待を抱かせたが、一軍のは早大の外野手としてベストナインに輝き、リクルートでも奮闘した。昭和六二年夏に甲子園に出た山口球は専大―熊谷組で活躍。平成に入つては杉山雄介が中大、杉本健二が駒大で気を吐く。平成一五年夏に甲子園でマスクをかぶった青池悠吾は慶大に進み、外野手として強肩と快足ぶりを発揮している。



平成19年の野球部(2・3年生)

精鋭輩出、伝統を示す



森山秀夫選手、石原富祥選手、松村勇司選手、松永勝之選手、宮城明秀選手、石田勝広選手、渡辺尚選手、太田智之選手、宗野徳太郎選手、大久保学選手、丸山博巳選手、高木康成選手

り、強肩強打で鳴らした。富士鉄室蘭に入り都市対抗で活躍。高校で一年上級の石原大で主将を務めた笹倉光平は、新人監督として長嶋茂雄を育てた。藤倉電線に入り都市対抗に出場、トップを打ち

山博巳は専大―日本軽金属で、山崎靖弘は早大―河合楽器で外野に回り主将を務めた。

昭和四八年夏の全国準優勝に貢献したエースの石田勝広は、早大入りし神宮でも好投。残念ながら肩を痛めて大学後半は出場がなかった。昭和四八年夏の全国準優勝時のエース秋本昌宏は、大に進むも、投手生命は高校時代に燃え尽きていたようだった。昭和五四年センバツ出場の左腕・太田智之は明大―河合楽器でも

ライオンが巧みで、立派にエース役を果たし東芝入り。トヨタに入った鶴田健太、日通入りの増井達哉、立大に入学した増田浩祐らの成長も楽しみだ。



春季県大会、打線は好調を維持した

春は県3位

準決勝	対常葉橘	5対6(負)
二回戦	対掛川西	12対8(勝)
一回戦	対浜松工業	8対4(勝)

夏に向け課題克服

切れ目ない打線目指す

「平成一九年春季県大会結果」一回戦 対浜松工業 8対4(勝) 二回戦 対掛川西 12対8(勝) 準決勝 対常葉橘 5対6(負) 三位決定戦 対小笠 12対2(七回コールド勝) 「春季県大会を振り返って」一番板倉、二番田島、三番越智、四番柳館、五番村松と、打線は好調であった。ただ、思

わぬ失点もあり、攻守ともにまだ調子に波がある。今年度は県内に好投手が多く、どう打ち崩していくかが課題となる。「夏の大会に向けて」先にも述べた好調な一番か

先にも述べた好調な一番か

山博巳は専大―日本軽金属で、山崎靖弘は早大―河合楽器で外野に回り主将を務めた。

昭和四八年夏の全国準優勝に貢献したエースの石田勝広は、早大入りし神宮でも好投。残念ながら肩を痛めて大学後半は出場がなかった。昭和四八年夏の全国準優勝時のエース秋本昌宏は、大に進むも、投手生命は高校時代に燃え尽きていたようだった。昭和五四年センバツ出場の左腕・太田智之は明大―河合楽器でも

ライオンが巧みで、立派にエース役を果たし東芝入り。トヨタに入った鶴田健太、日通入りの増井達哉、立大に入学した増田浩祐らの成長も楽しみだ。

大野(有本) 勲は強肩で鳴らし、驚異製作所でも活躍した。昭和五四年のセンバツに登場した安間大芳は中大に入り、河合楽器に入社して都市対抗に出場した。昭和五七年夏の甲子園に出た宮城明秀も中大で活躍している。昭和六二年夏に右翼手として甲子園

は石川島播磨重工で活躍。左打ちの塩沢誠は専大に進み、昭和四〇―四一年東都ベストナインに三期連続で選ばれており日本楽器でも着実な打力をみせた。西村晃は高校から

ここに記し切れなかった選手の中にも好素質を持ったプレイヤーは数多く存在する。静高OBの老記者として、神宮あるいは東京ドーム等のスタンドから静高出身の精鋭を見ることは限らない楽しみである。人選についてはご不満の向きもあろうが、年齢に免じてご容赦願いたい。

昭和四八年夏の全国準優勝に貢献したエースの石田勝広は、早大入りし神宮でも好投。残念ながら肩を痛めて大学後半は出場がなかった。昭和四八年夏の全国準優勝時のエース秋本昌宏は、大に進むも、投手生命は高校時代に燃え尽きていたようだった。昭和五四年センバツ出場の左腕・太田智之は明大―河合楽器でも

ライオンが巧みで、立派にエース役を果たし東芝入り。トヨタに入った鶴田健太、日通入りの増井達哉、立大に入学した増田浩祐らの成長も楽しみだ。

大野(有本) 勲は強肩で鳴らし、驚異製作所でも活躍した。昭和五四年のセンバツに登場した安間大芳は中大に入り、河合楽器に入社して都市対抗に出場した。昭和五七年夏の甲子園に出た宮城明秀も中大で活躍している。昭和六二年夏に右翼手として甲子園

は石川島播磨重工で活躍。左打ちの塩沢誠は専大に進み、昭和四〇―四一年東都ベストナインに三期連続で選ばれており日本楽器でも着実な打力をみせた。西村晃は高校から

勝利創造

会員募集中！ご入会の方には、会報をお送りします。

年会費1口5千円です。郵便振替：00870-6-49256 「静高野球部後援会」 後援会は、物心両面で野球部をサポートします。

会長：川村修 後援会ホームページ <http://www.yakyubu-koenkai.jp>
事務局/〒422-8615 静岡市駿河区吉田2-5-10 (株) シャンソン化粧品内 TEL054-261-8181 FAX054-261-8877